

学習例7 知ることは大事

対 象 教職員・保護者

ねらい

- ・性の多様性を知り、偏見や差別をなくそうとする意欲をもつ。

参考資料

- ・ふくろう出版「封じ込められた子ども、その心を聴く - 性同一性障害の生徒に向き合う -」中塚 幹也 (著)

進め方

- 進行者 ・学習者の反応例

流れ	展開と内容	形態												
導入	アイスブレイク	グループ												
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●性同一性障害とは、MTF（身体の性は男性、心の性は女性）やFTM（身体の性は女性、心の性は男性）など、生物学的な性と、性の自己意識（性自認）が一致しないため、社会生活に支障がある状態のことです。「性的指向」と「性自認」とは異なるものであり、対応に当たっては混同しないことが必要です。「性的指向」とは、恋愛対象が誰であるかを示す概念とされています。 <p>【ワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生物学的な性と性自認が一致しない（性別違和を感じている）児童生徒は、学校生活の中でどのような困り感があるか考えてみましょう。 <p>【ワーク2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【ワーク1】で考えた学校生活の場面において、生物学的な性と性自認が一致しない（性別違和を感じている）児童生徒に対するどのような支援が考えられますか。 <p>【参考】 文部科学省 性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について（教職員向け）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目（学校生活の場面）</th> <th>学校において考えられる支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>服装</td> <td>自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。</td> </tr> <tr> <td>髪型</td> <td>標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）</td> </tr> <tr> <td>更衣室</td> <td>保健室・多目的トイレ等の利用を認める</td> </tr> <tr> <td>トイレ</td> <td>職員トイレ・多目的トイレの利用を認める</td> </tr> <tr> <td>呼称の工夫</td> <td>校内文書を児童生徒が希望する呼称で記す</td> </tr> </tbody> </table> <p>【ワーク3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【資料1】「ある生徒の告白」を読み、相談してきた生徒の気持ちを考えましょう。 ●【資料2】【資料3】は岡山大学病院ジェンダークリニックの資料です。現代の課題として確認しましょう。 	項目（学校生活の場面）	学校において考えられる支援	服装	自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。	髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）	更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める	トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める	呼称の工夫	校内文書を児童生徒が希望する呼称で記す	<p>全体</p> <p>個</p> <p>グループ</p> <p>全体</p> <p>グループ</p> <p>個</p>
	項目（学校生活の場面）	学校において考えられる支援												
	服装	自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。												
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）													
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める													
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める													
呼称の工夫	校内文書を児童生徒が希望する呼称で記す													
まとめ	<p>【ワーク4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どんなことに気づき、どう考えましたか。 ・児童生徒だけでなく、周りに悩んでいる人がいるかもしれない。 ●これからの生活に、どのように活かせそうですか。 ・ネガティブメッセージ（差別表現、偏見・差別等）に気を付けたい。 ・多様な性を認める学校を目指したい。 	<p>個</p> <p>グループ</p>												

ワークシート「知ることは大事」

- 1 生物学的な性と性自認が一致しない（性別違和を感じている）児童生徒は、学校生活の中でどのような困り感があるか考えてみましょう。

■言葉の説明
 M T F (Male To Female)
 (身体の性は男性、心の性は女性)
 F T M (Female To Male)
 (身体の性は女性、心の性は男性)

- 2 生物学的な性と性自認が一致しない（性別違和を感じている）児童生徒に対して、学校生活の各場面においてどのような支援が考えられますか。

項目（学校生活の場面）	学校において考えられる支援

- 3 【資料1】「ある生徒の告白」を読み、相談してきた生徒の気持ちを考えましょう。

【資料1】

「ある生徒の告白」

(16歳 高校生 身体の性は男性 心の性は女性 MTF)

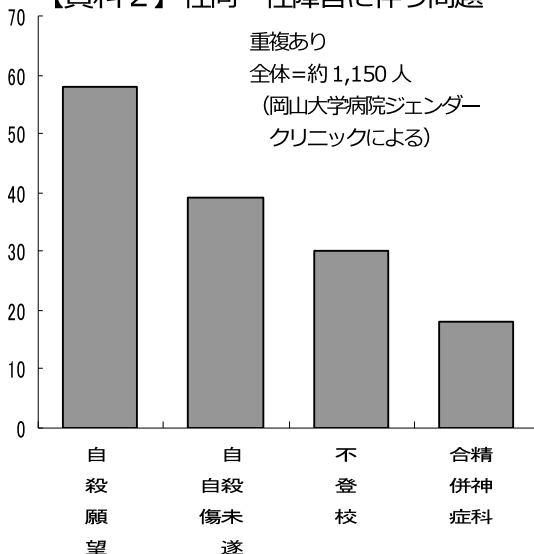
風呂やトイレで自分の体を見るのが嫌だ。ひげが生えるのが嫌だ。

学校では、女子と一緒にいると楽しい。男子トイレに入ることに抵抗を感じた。

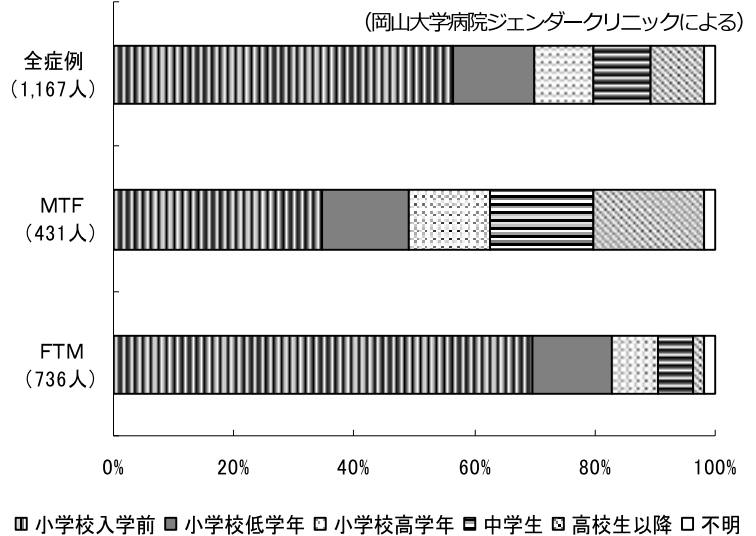
みんなで風呂に入るのが嫌で宿泊行事を休んだ。小さいときからままとや人形遊びが好きだ。

家族には男らしくするように言われた。今後は不安で、何に対しても自信をもてない。

【資料2】 性同一性障害に伴う問題



【資料3】 性別違和感を自覚し始めた時期



- 4 どんなことに気づき、どう考えましたか。また、これからの生活にどう活かそうですか

学習例8 指導？ or ハラスメント？

対 象 教職員

ねらい

- ・教職員一人一人が、ハラスメントになる可能性がある言動を理解し、互いを尊重し合い、風通しの良い職場環境づくりを進める意識をもつ。

留意点

- ・業務上の命令や指導に対して受け手が不快と感じた場合でも、業務の適正な範囲で行われた場合にはハラスメントには該当しない。
- ・業務上の指導を行う場合には、業務上の必要性や適正な内容かどうか、指導のタイミング、指導の場所、指導方法など状況に応じて適正な指導に留意する必要がある。

進め方

●進行者 ●学習者の反応例

流れ	展開と内容	形態								
導入	アイスブレイク	グループ								
展開	<p>【ワーク1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【資料1】を読み、気になる部分に下線を引きましょう。 ●A先生、B先生、管理職の何が問題であったか考えましょう。 <p>記入例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="text-align: center;">問 題 点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A先生</td> <td>生徒の前で叱責していること。 授業を止めたり代わったりしていること。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B先生</td> <td>悩みをためこまず、相談することが大切である。 悩みや授業準備について相談できる同僚が他にも多く必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">管理職</td> <td>B先生の悩みに共感すべきである。 A先生の指導の様子を確認すべきである。</td> </tr> </tbody> </table>		問 題 点	A先生	生徒の前で叱責していること。 授業を止めたり代わったりしていること。	B先生	悩みをためこまず、相談することが大切である。 悩みや授業準備について相談できる同僚が他にも多く必要である。	管理職	B先生の悩みに共感すべきである。 A先生の指導の様子を確認すべきである。	<p>全体 個 グループ 全体</p>
		問 題 点								
	A先生	生徒の前で叱責していること。 授業を止めたり代わったりしていること。								
	B先生	悩みをためこまず、相談することが大切である。 悩みや授業準備について相談できる同僚が他にも多く必要である。								
管理職	B先生の悩みに共感すべきである。 A先生の指導の様子を確認すべきである。									
展開	<p>【ワーク3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【資料2・3】を参考にして、パワハラと指導の違いについて考えましょう。 ●自分が理想とする「風通しの良い職場」とは、どのような職場かを考えましょう。 	<p>個 グループ 全体</p>								
	まとめ	<p>【ワーク4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どんなことに気づき、どう考えましたか。 ●グループまたは全体で「振り返り」を共有しましょう。 ●これからの生活にどんなことが活かせそうですか。 	<p>個 グループ 全体</p>							

ワークシート「指導？ or ハラスメント？」

【資料1】

A先生（教科主任を務めるベテラン教諭）は、B先生（新規採用教諭）の指導教員を務め、週に1時間程度B先生の授業を参観していた。

B先生が採用されて1か月が過ぎた5月頃から、B先生の授業がうまく進まない、A先生は授業を途中で止め、生徒の前で「教材研究はちゃんとしたの？」と大声で叱責したり、時には、代わりに授業を進めたりすることがあった。

次第に生徒はB先生に対して、軽蔑した態度を取るようになっていった。

B先生は、「自分が授業力をつけるようにがんばろう。」と思って努力したが、授業を思うように進めることはできなかった。さらに、A先生に授業の進め方について相談することも少なくなっていった。

6月になり、A先生と生徒の態度に耐えられなくなったB先生は、管理職に相談した。しかし、「最初から授業を上手に進められるわけがない。A先生もあなたのことを思ってやっているのだから。おもしろい授業をやれば生徒の態度も変わる。」と言うだけであった。

B先生は完全に自信をなくし、7月に入ってすぐに、体調不良を訴え、出勤できなくなった。

- 1 【資料1】を読み、気になる部分に下線を引きましょう。
- 2 A先生、B先生、管理職の何が問題であったか考えましょう。

	問題点
A先生	
B先生	
管理職	

- 3 【資料2・3】を参考にして、パワハラと指導の違いについて考えましょう。

【資料2】

「パワー・ハラスメント」については、「職務上の地位や権限又は職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、人格と尊厳を侵害する言動を行い、精神的・身体的苦痛を与え、あるいは職場環境を悪化させること」を指すといわれています。

【資料3】


	パワー・ハラスメント	指導
目的	相手を馬鹿にする、排除する 自分の目的（思い通りにしたい等）の達成	相手の成長を促す
業務上の必要性	業務上の必要性がない（個人生活、人格否定） 業務上の必要性があっても不適切な内容や量	仕事上必要性がある、または健全な職場環境を維持するために必要なこと
態度	威圧的、攻撃的、否定的、批判的	肯定的、受容的、見守る、自然体
タイミング	過去のことを繰り返す 相手の状況や立場を考えない	タイムリーにその場で 受入れ準備ができているときに
誰の利益か	組織や自分の利益優先 （自分の気持ちや都合が中心）	組織にも相手にも利益が得られる
自分の感情	いらいら、怒り、嘲笑、冷徹、不安、嫌悪感	好意、穏やか、きりっとした
結果	部下が萎縮する、退職者が増える 職場がぎすぎすする	部下が責任を持って発言、行動する 職場に活気がある

【参考】 お互いが働きやすい職場にするために（パワー・ハラスメント防止ハンドブック）〈平成27年人事院〉

- 4 どんなことに気づき、どう考えましたか。また、これからの生活にどう活かそうですか。

ワークシート「よく見てごらん」

1 ^{どうぶつ}動物たちの、どのようなところがすごいと^{おも}いますか。

<p>ぞう</p>  <p>[]</p>	<p>きりん</p>  <p>[]</p>	<p>ライオン</p>  <p>[]</p>	<p>うさぎ</p>  <p>[]</p>
<p>りす</p>  <p>[]</p>	<p>さかな</p>  <p>[]</p>	<p>とり</p>  <p>[]</p>	<p>くま</p>  <p>[]</p>
<p>ねこ</p>  <p>[]</p>	<p>ねずみ</p>  <p>[]</p>	<p>[]</p>	<p>[]</p>

2 ^{じぶん}自分や^{ともだち}友達のよいところを^みつけましょう。

[]

3 どんなことに^{きづ}気付き、どう^{かんが}考えましたか。

[]

学習例 10 いじめを取り巻く“人”について考える

対 象 中学生から高校生

ねらい

- ・いじめについて知り、正しい判断で対応することができるようにする。
- ・いじめについて考えることを通して、多様性を理解し、相手を思いやる力を身に付ける。

参考文献

- ・文部科学省「中学校 社会のルールを大切に作る心を育てる」

進め方

●進行者 ●学習者の反応例

流れ	展開と内容	形態												
導入	アイスブレイク	グループ												
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめについて考えます。 <p>【ワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【資料】「いじめを取り巻く人間関係」を見て、それぞれの“人”について、自分がその立場だったらあなたはどうしますか。自分の考えを書きましょう。 ●グループの中で、自分の考えを発表しましょう。 記入例 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">取り巻く“人”</th> <th>自分の考え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いじめられている人</td> <td>だれかに助けてもらいたい。</td> </tr> <tr> <td>いじめている人</td> <td>ただ「いじっているだけ」だよ。</td> </tr> <tr> <td>周りではやし立てる人</td> <td>つい雰囲気流されてしまいそうだなあ。</td> </tr> <tr> <td>見て見ぬふりをする人</td> <td>なかなか止める勇気が出そうもない。</td> </tr> <tr> <td>何とかしようとする人</td> <td>いじめは許してはいけない。</td> </tr> </tbody> </table>	取り巻く“人”	自分の考え	いじめられている人	だれかに助けてもらいたい。	いじめている人	ただ「いじっているだけ」だよ。	周りではやし立てる人	つい雰囲気流されてしまいそうだなあ。	見て見ぬふりをする人	なかなか止める勇気が出そうもない。	何とかしようとする人	いじめは許してはいけない。	全体 個 グループ
	取り巻く“人”	自分の考え												
いじめられている人	だれかに助けてもらいたい。													
いじめている人	ただ「いじっているだけ」だよ。													
周りではやし立てる人	つい雰囲気流されてしまいそうだなあ。													
見て見ぬふりをする人	なかなか止める勇気が出そうもない。													
何とかしようとする人	いじめは許してはいけない。													
まとめ	<p>【ワーク2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●もし、誰かがいじめられている場面に出会ったら、あなたほどの“人”になると思いますか。 ●グループの中で、自分の考えを発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「何とかしようとする人」になりたいけど、勇気がないかもしれない。 ・ふざけてはやし立ててしまうかもしれない。 ・関わると自分がいじめられてしまうかもしれないのが怖い。 	個 グループ												
	<p>【ワーク3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どんなことに気づき、どう考えましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人がいじめを許さない気持ちをもつ必要がある。 ・いじめ問題はみんなの問題だと気付いた。 ●グループの中で自分の考えを発表しましょう。 <p>【ワーク4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これからの生活にどんなことが活かせそうですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつも自分ならどうするかを考えて生活する 	個 グループ 個												

【資料】 いじめを取り巻く人間関係



ワークシート「いじめを取り巻く “人” について考える」

1 それぞれの “人” について、自分がその立場だったらどうしますか。

取り巻く“人”	自分の考え
いじめられている人	
いじめている人	
周りではやし立てる人	
見て見ぬふりをする人	
何とかしようとする人	

2 もし、誰かがいじめられている場面に出会ったら、あなたはどの “人” になると思いますか。

3 どんなことに気づき、どう考えましたか。

4 これからの生活にどのように活かそうですか。

学習例 11 あのね…

対 象 教職員・保護者

ねらい

- ・いじめられていることを言えずにいる子どもの思いや子どもにかかる言葉を想像することを通して、周囲の大人の何が子どもを支えるかを考える。

留意点

- ・法務省人権啓発DVD「未来を拓く5つの扉 3/6 立ち止まる」は静岡県教育委員会からの貸出の他、動画共有サイトの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能である。

進め方

●進行者 ●学習者の反応例

流れ	展開と内容	形態
導入	アイスブレイク	グループ
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの思いを想像し、私たちがかける言葉を考えます。 ●【資料1】「いじめられた児童生徒の相談の状況の推移（平成28年度）」から、どのようなことを感じますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きくなるほど大人には相談しなくなる。 ・保護者への相談が少ない。 ・誰にも相談できず、一人で悩む子どもがいる。 ・子どもが一人で抱え込んでしまう状況はつくりたくない。 ●法務省人権啓発DVD「立ち止まる」を視聴する。又は【資料2】を朗読する。 <p>【ワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あなたがいじめられている子どもだったら、どのような言葉をかけてほしいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・心配しているよ。 ・言いたくなったら教えてね。 ・どうしたの、元気がないね。 ・学校で何かあったの？ ・お母さんが先生に言ってあげようか。 ・黙っていてもわからないよ。 <p>【ワーク2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お母さんに言えなかった「僕」の心には、どんな思いがあったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんには心配かけたくない。 ・僕がいじめられるなんて、信じたくない。 ・お母さんに言ったら、もっといじめられないか不安。 ・誰にも言えず苦しい。 ●どのような言葉が「僕」の心に響くのでしょうか。考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・何を言っても受け止めてくれるという信頼があってこそ話してくれると思う。 ・苦しんでいる子どもを追い詰めてしまうような言葉には気をつけたい。 	全体 グループ 個 グループ 個 グループ 個 グループ
	まとめ	<p>【ワーク4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どんなことに気付き、どう考えましたか。これからの生活にどう活かそうですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話を最後まで聴く。 ・笑顔でこちらから声をかける。 ●グループで話し合ったことを全体に発表してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたを見ている」というメッセージを発していることが大切だと思う。

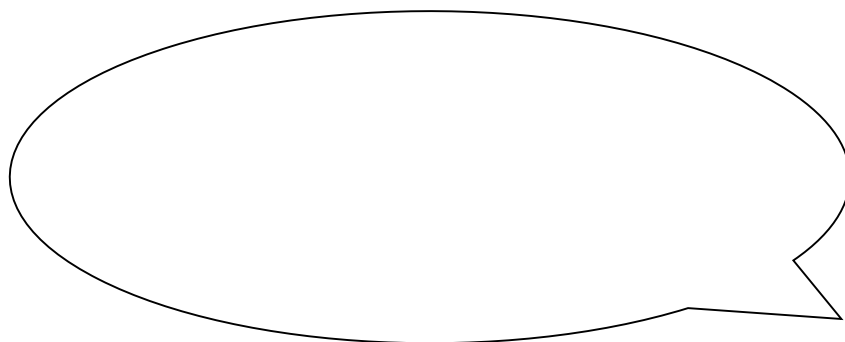
【資料1】 いじめられた児童生徒の相談の状況の推移 (平成28年度) (%)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
学級担任に相談	79.4	74.2	66.2	74.6
学級担任以外の教職員に相談	4.8	18.2	20.4	17.5
養護教諭に相談	2.0	5.8	8.1	1.5
SC等の相談員に相談	1.5	4.5	5.7	1.2
学校以外の相談員に相談	0.4	1.2	1.5	0.8
保護者や家族等に相談	23.2	27.3	19.8	16.1
友人に相談	6.1	9.9	12.2	2.9
その他の人に相談	0.5	0.4	0.5	0.7
誰にも相談していない	6.2	6.8	12.8	10.2

文部科学省 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(確定値)について(平成30年2月23日)

ワークシート「あのね…」

- 1 あなたがいじめられている子どもの立場であったら、どのような言葉をかけてほしいですか。



- 2 お母さんに言えなかった「僕」の心には、どんな思いがあったのでしょうか。

- 3 どのような言葉が「僕」の心に響くのでしょうか。

- 4 どんなことに気づき、どう考えましたか。これからの生活にどのように活かそうですか。

学習例 11 「あのね…」

【資料 2】「立ち止まる」

東京都 小金井市立小金井第二中学校 2年
熊谷 瑞生（くまがい みずき）

「右目の視力が低く、内斜視になっています。けれどまだ成長段階ですから、メガネで矯正できますよ」

眼科医からそう告げられた時、僕は5歳で「斜視」の意味も分からず、母から与えられたメガネを新しいオモチャでももらったように、喜んで掛けていた。

問題は小学校2年の時に起こった。

家庭で遊んでいると中学年の男子生徒が数人近寄って来て、突然僕のメガネを取り上げると、宙に投げるようにパスを繰り返して、返してくれなかったのだ。そして最後に受け取った男子生徒が地面にメガネを叩き付けた。

メガネは、弦の部分が曲がり、レンズも外れて転がっていた。何が起きたのか分からなかった。

壊れたメガネをティッシュに包み、家に持ち帰って母に渡したとき、理由を聞かれたが本当のことを言えず、友達と遊んでいて壊してしまったと嘘をついた。

それからも中学年は、僕をみつける度、メガネを取り上げたり、頭をこづいたり、いきなり突き飛ばしたり、ことあるごとに嫌がらせをした。それを見ていたクラスメートも、だんだん面白がるようになり、誰かが僕のことをある名前で呼び始めた。

「メガネ猿」

クラスメートのからかいが増すごとに酷くなり、僕は学校に行くのが怖くなった。

ある日、母が仕事に出た後を見計らい、ランドセルを背負ったまま家に帰ると自分の部屋にこもった。

どうして、こんなことになったのだろう。メガネをしているから？僕が「斜視」で顔が変だから？胸の奥が熱くなり、鉛のような重いものがせり上げてきた。

その日、登校してこない僕を心配して、担任の先生が家に来てインターホンを鳴らし続けた。2月の寒い日で、風が冷たく、雨も降っていた。それでも先生は何どもインターホンを鳴らし続けた。連絡を受けた母も会社を早退して帰って来て、先生と一緒に家の扉を開けた。僕をみつけた先生は「よかった。家にいてくれて。事故にあったか、悪い人に連れていかれたかと思ったよ。明日は学校にちゃんと登校してね」と優しく笑った。

先生は一言も僕を責めたりしなかった。

あくる日、先生から学校に行かなかった理由を尋ねられ、僕は本当のことを話した。

「メガネ猿」、と毎日友達からからかわれるのが辛かったこと。中学年の男子生徒が怖かったこと。話終えると、あのせり上げていた鉛の塊が、僕の口から、転がり落ちた気がした。

「僕がメガネをかけているから、変だから、みんなが意地悪をするのですよね」

すると先生は、頬を紅潮させて言った。「違うよ。瑞生君は何も悪くない。人と違うところがあっても何も悪くない。メガネをからかう友達がいないんだよ。」

先生の言葉を聞いた時、何故だか前がくもって見えなくなった。レンズには僕の涙がいくつも付いていた。

今の僕なら「メガネ猿」と呼ばれても、聞き流せるし、猿の真似くらいして相手を笑わせることもできる。

時々、「そんなことくらいで傷ついてどうするの。もっと辛いことされたり、言われたりする人がこの世には大勢いるんだよ」と言う人がいるが、僕は違うと思う。人の心の痛みは他人と比べることが出来ない絶対的なものだ。その人が辛いと感じるなら、心のバケツが一杯になってしまっているのだから、より大きなバケツになるには、その人のこれからの経験が心の筋肉を強くするまで、時間がかかるものだと思う。

言葉は、時にその人の心を深く傷つける。特に人と違う点や、人とは劣っていると思っていることを、何度も繰り返し集団の中で言われているうちに、傷は深く、深くなる。

言葉とは、他人にものを伝える上で大切な手段にも関わらず、何も考えずに発した一言で相手の胸の中に冷たく重い鉛の塊をも作り出してしまうほど、猛毒になり得るのだ。

一方で、言葉は他人を救う暖かい毛布にもなる。

あの時先生が「瑞生君は何も悪くない」と言ってくれた言葉は、僕の胸に詰まった重く冷たい塊を少しずつ溶かしてくれた。

14歳になって僕は思う。人と話す時、一度「立ち止まろう」と。これから僕が相手に言う言葉は毒になってしまうかわ、それともほんの少しでも相手の気持ちを和らげたり、楽しくさせたりできるだろうか。毛布のような言葉で、相手の冷え切った感情を温めてあげることができるだろうか。

僕は立ち止まって、一呼吸おき、今日も友人や家族と言葉を通して、強く優しい結びつきを築けていけたらと思う。

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会
第32回全国中学生人権作文コンテスト
法務事務次官賞